

セフェリス詩集 二

訳： 浮 田 三 郎

「ギムノベディア」

シーラは、地質学的には、軽石と陶土で構成されていて、その湾の中に、島々が現れ沈んでいった。島には、太古の宗教の中心が存在していて、そこでは、ギムノベディアと呼ばれる厳格で重々しいリズムの叙情的な舞踏が行われていた。

ギリシア案内

一 サントリーニ

できれば 暗い海に屈み込んでごらん 忘れて
裸の足で 牧笛の調子を忘れて
底に沈んだもう一つの生のおまえの眠りを踏みつけた足で。

できれば 最後のおまえの貝殻に書いてごらん
日 名前 場所を
そしてそれを海に投げなさい それが沈むように。

5

軽石の上で私たちは裸でいた
出現してくる島を眺めながら
真っ赤な島が沈むのを眺めながら
島々の眠りの中に、私たちの眠りの中に。
ここに私たちは裸でいた
不正の方へ重く傾いた天秤を

10

持って。

力の踵 陰のない欲望 計算された愛
真昼の太陽の中で成熟する計画、 15

肩甲骨への
若い手の平の一打ちの運命の道が：
ばら撒かれてしまっていて耐えることのないこの場所に
かつては私たちのものだったこの場所に
島々は沈んでいく 錆と灰。 20

崩れ落ちた祭壇
そして忘れ去られた友達
泥の中の椰子の葉。

できればおまえの手を離せ、 それらが旅するように
ここ時間の曲がり角に 25

水平線に触れた船で。
さいころが敷石を打った時
槍が鎧を打った時
眼が見知らぬ人を知り
愛が乾いた時 30

穴の開いた魂の中で：
おまえの回りを見渡し
一円の切り取られた足を
一円の死んだ手を
一円の暗い眼を 見つけ出した時： 35

おまえが 死を 選ぶこともはやない時
おまえ自身のもんとして求めた死を、
一つの叫びを聴きながら
狼の叫びをさえも、
おまえの権利を； 40

できればおまえの手を離せ、 それらが旅するように
この不貞の時から離れて
沈め、

大きな石を持ち上げる者は誰でも沈む。

二、ミケーネ

手をかしてくれ、手をかしてくれ、手をかしてくれ。

私は見た 夜の中に
山の尖った頂上を
私は見た 遙かに見える月の光で
溢れる平原を 5
私は見た、首を回して
ごっちゃに積み上げられた黒い石と
弦のように張り伸ばされた私の命を
初めと終わり
最後の瞬間： 10
私の手。

大きな石を持上げる者は誰でも沈む：
我慢できるだけ それらの石を私は持上げた
我慢できるだけ それらの石を私は愛した
それらの石を、私の運命を。 15
私自身の土に傷つけられて
私自身のシャツに苦しめられて
私自身の神々に宣告されて、
それらの石を。

みんなが知らないことを私は知っている、しかし 20
それほど何度も
殺人者から犠牲者への道を
犠牲者から報復への道を
そして報復からもう一つの殺人への道を 辿った私は、
手探ししながら 25
尽きない紫を
帰郷のあの夜に

エリニウス達^{*}がヒューヒューやり始めた夜に
乏しい草の中で—
毒蛇と交差している蛇を私は見た^{*} 30
悪い種の上に編まれた蛇
私達の運命を。

眠りからの石からの声
この世が暗くなるここでさらに低く、
リズムに根差した骨折りの記憶 35
足で 大地を打つリズムに
忘れ去られた足で。
他の時代の底に
沈められた体、裸の体。眼
釘付けにされた眼は、ある印に 40
おまえがどんなに望もうとも見分けられない印に、釘付けにされ：
魂は
おまえの魂になるために戦う魂は。

沈黙さえもはやおまえ自身のものではない
ひき白が止まったここでは。 45

10月1935年

注釈

- * ギムノベディア：セフェリス、『詩集』、イカロス、（第九版、1974）
pp.73-78に収録のもの。
ギムノベディアは、スパルタでの祭りで、そこでは、裸の男子が踊り体操する（Liddell & Scott, Greek-English Lexicon）。
- * シーラ：サントリーニ（島）のギリシア名。エーゲ海に浮かぶ美しいキラデス諸島の一つで、サントリーニの名でよく知られている。この島は、歴史的にも大きな火山爆発があったことで知られており、これが、伝説の海底に沈んだアトランティス大陸であると言う説もある。今でも、鋭くえぐられた火山灰の層が幾重にもなった数十メートルの高さに及ぶ岸壁に囲まれた広大な湾の中程には、時々細く噴煙を上げる島が見られる。
- * サントリーニ：注のシーラの項参照。この名前は、聖尼僧 Saint Irene のなまったものと言われている。
- * ミケーネ：ペロポネソス半島の古代のポリス国家の一つ。青銅器時代のミケーネ文明の中心地で、アトレウスの子アガメムノン王の豪華な居城があったとされるミケーネのアクロポリスは、今は、僅かに巨石壁がその名残をとどめているぐらいである。春頃、訪れてみると、瘦せた大地の所々に、まだ肌寒い風の中に、アスポデロス（死人草）が見つわものどもの夢を咲かせている。
- * 18（シャツ）：ギリシア神話では、ケンタヴロス（半人半馬）のネッソス（Herculesの妻Deianiraを奪おうとしてHerculesに射殺された）の魔法のシャツがヘラクレスの苦悶の最後をもたらす。
- * 25-26：『アガメムノン』、957-960 参照（本詩集注 26-27）。
- * 28（エリニュス達）：ギリシア・ローマ神話に出てくる復讐の三女神。Alecto, Megaera, Tisiphoneという三姉妹で頭髮が蛇である。
- * 30：ギリシアの歌謡に同様な歌詞がある（本詩集注）：
服を脱いで若者は、帯を解いて井戸の中へ入っていった。
こちらを捜して、あちらを捜して、なんにも見つけない。
彼は、毒蛇と交差して編まれた蛇を見る。